

# スチレンボードを使ったレリーフ制作

## 配付するもの

- ・1mm厚スチレンボード（400×550mm本体用・180×180mm台紙用）各1枚
- ・接着剤（ボンド ペーパーキレイ）1本
- ・説明用プリント

## その他の用具

- ・カッター用マットカッター（通常タイプ・デザインナイフタイプ）

## 制作手順

①アイデアを考える・・・プリント参照 ◆使用するモジュールは1種類

- ◆フリーハンドでいくつか描いてみる
- ◆それぞれを4個以上描いてはさみ等で切り離して並べ替えてみる
- ◆モジュールのパーツには曲線を使わない
- ◆モジュールの段数は問わないが配付されるスチレンボードでまかなえること

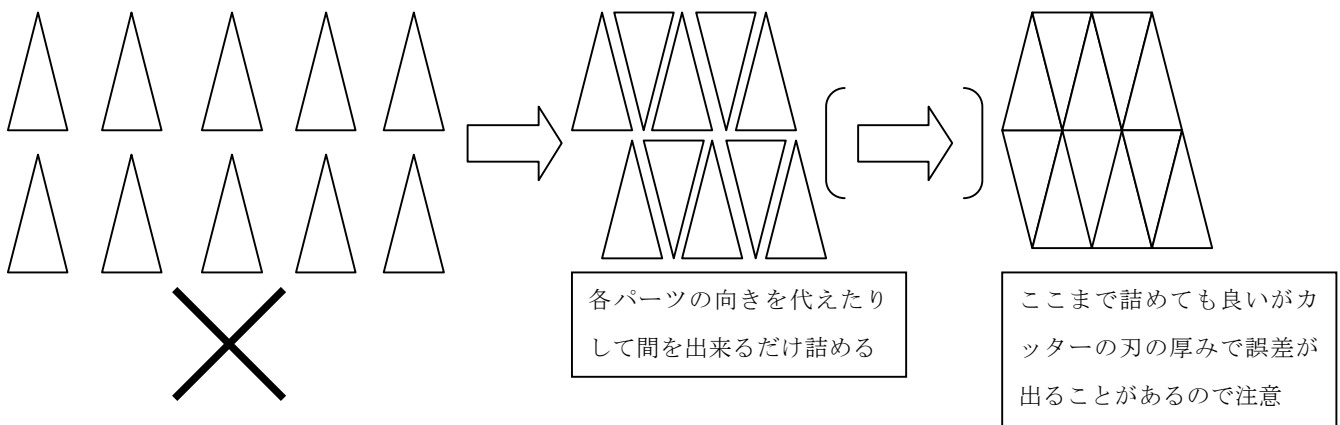
②良さそうなアイデアは定規を使って正確に描いてみる

③モジュール1個内の高低の確認

④モジュール1個作るのに必要なパーツの確認 ※別紙プリント参照

⑤スチレンボードに各パーツを製図する ※40×40mmの正方形は必ず16個分作図する

※各パーツの間隔は出来るだけ詰める



⑥各パーツのカット ※カット終了後消しゴムで下書きの線を落とすこと。

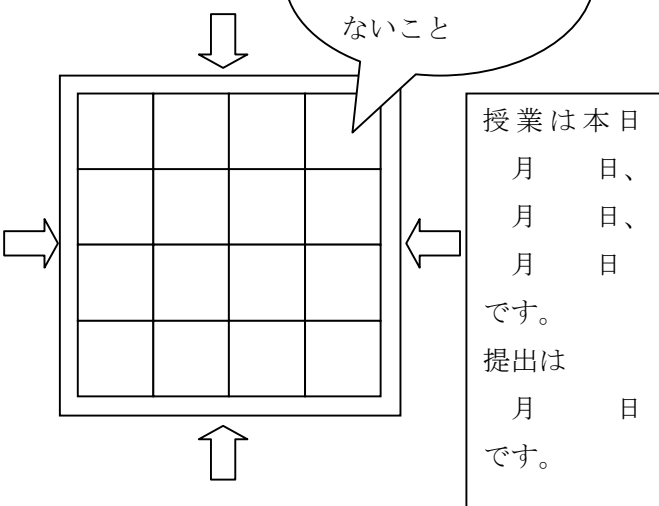
⑦モジュールの組み立て ※接着剤がはみださないように気を付ける

⑧最終配置の検討

⑨台紙用スチレンボードへの接着

氏名は裏側に！  
上下を間違えないこと

台紙用スチレンボードのサイズは180×180mmなので、モジュールをきっちり並べると、上下左右に10mmの余白が取れるはず・・・だが、取れない。  
これは、各モジュールの大きさに微妙な違いがあるからだ。  
◆幅10mmの余白の位置に薄く線を引き、モジュールを並べて実際の余白の位置に線を引き直してから接着を始めること。余白は上下左右が等しければ、10mmに満たなくても良い



授業は本日  
月 日、  
月 日、  
月 日  
です。  
提出は  
月 日  
です。

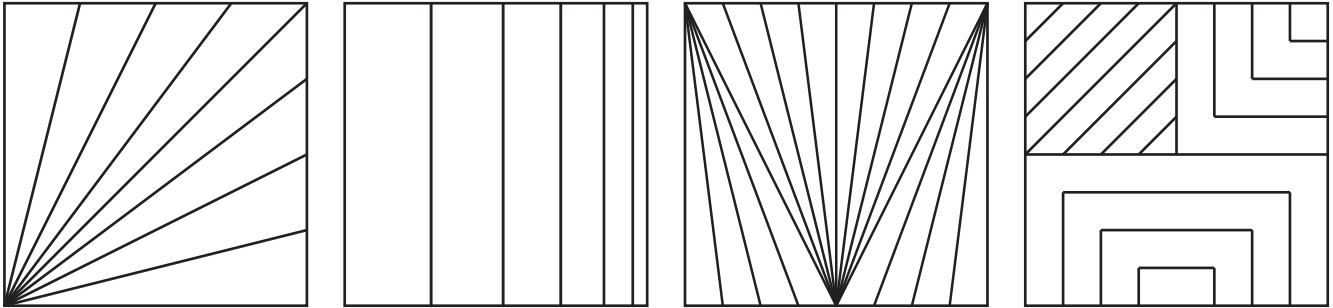
配付されるスチレンボードをカットして貼り重ね、同一のモジュールを16個作り、それらを18cm四方の大きさのスチレンボードの台紙上に構成する。

モジュールの作り方

※モジュール：構成単位のこと

- ・直線のみ使います。
- ・アイデア作成用紙にいろいろと描いてみて、形を決めていきます。

アイデアの例

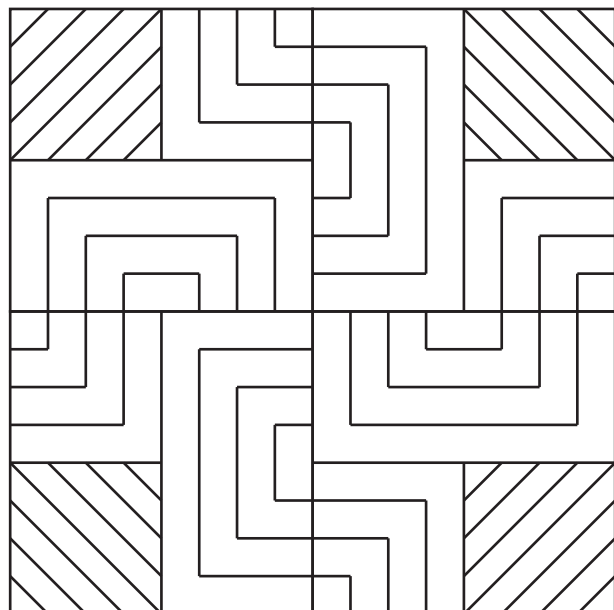
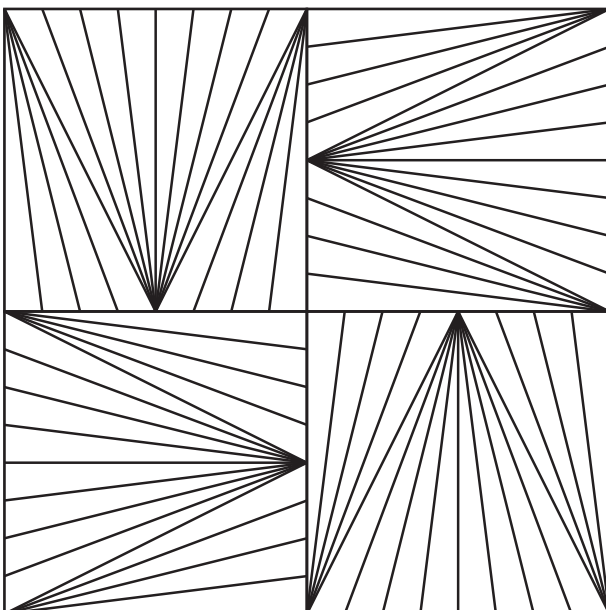
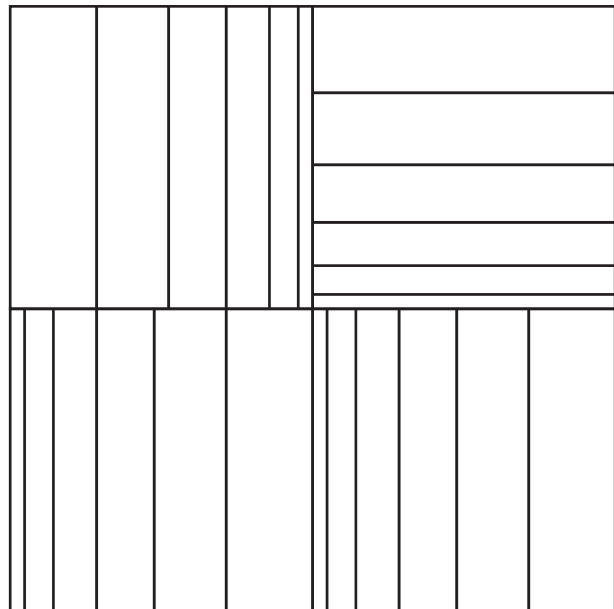
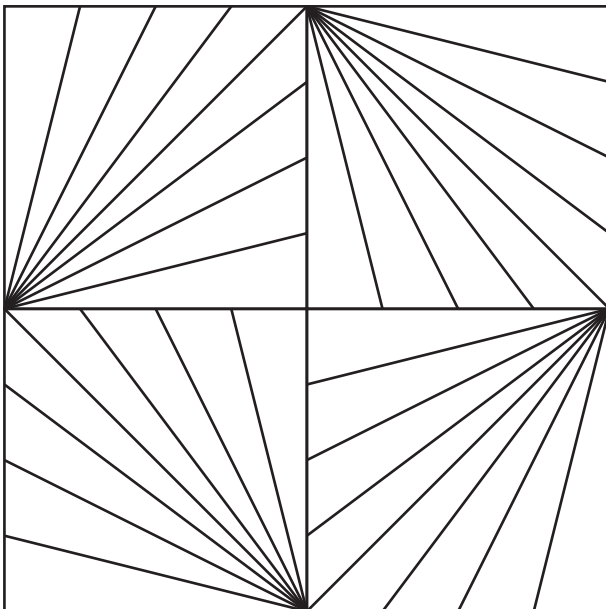


A

B

C

D

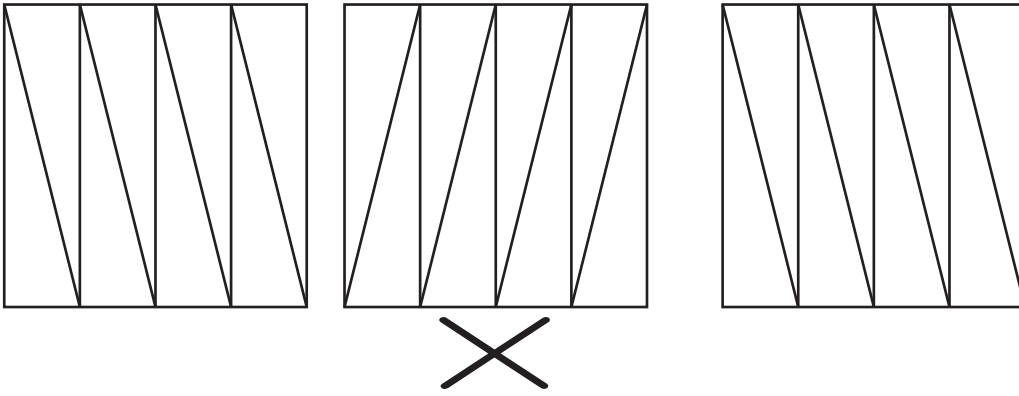


個数が増え、向きが変わることで見え方が変わってくる。

禁止事項

今回の課題では次のことはやらないでください。

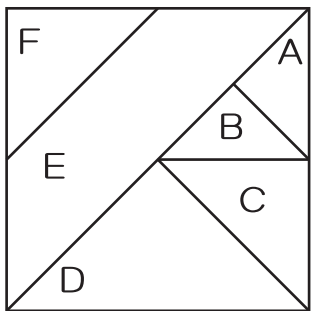
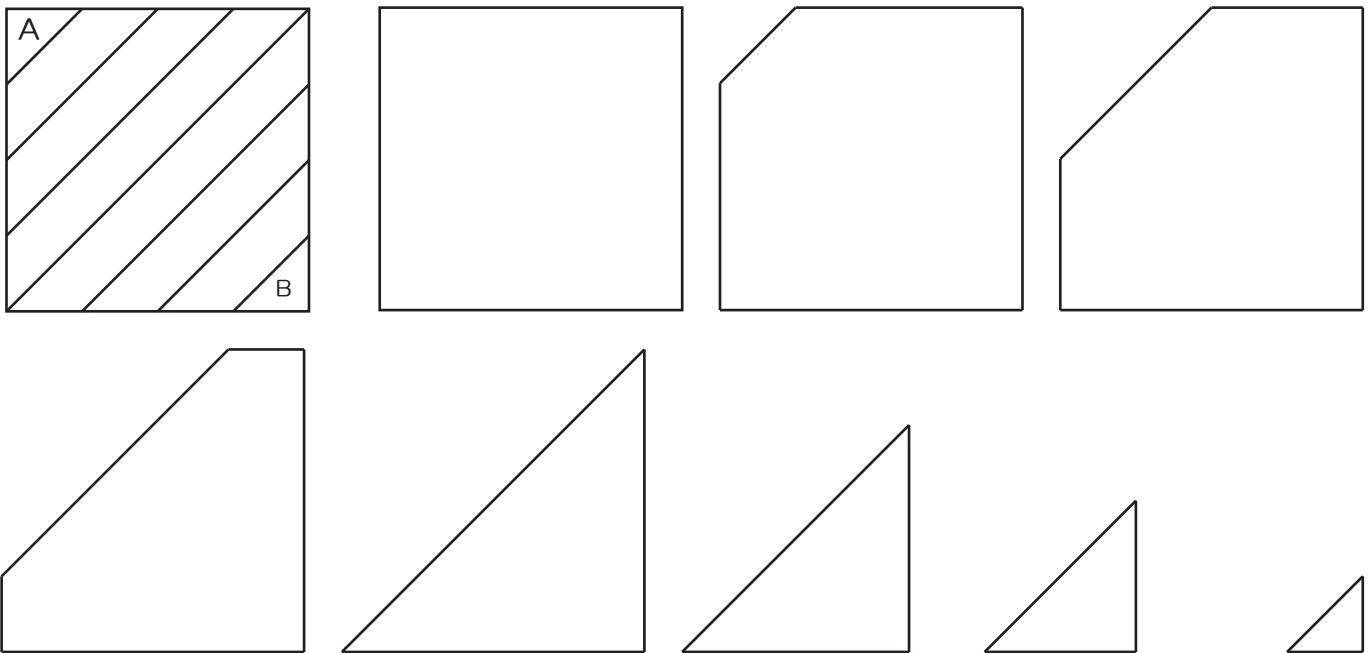
◆モジュールは回転のみ、反転させない。



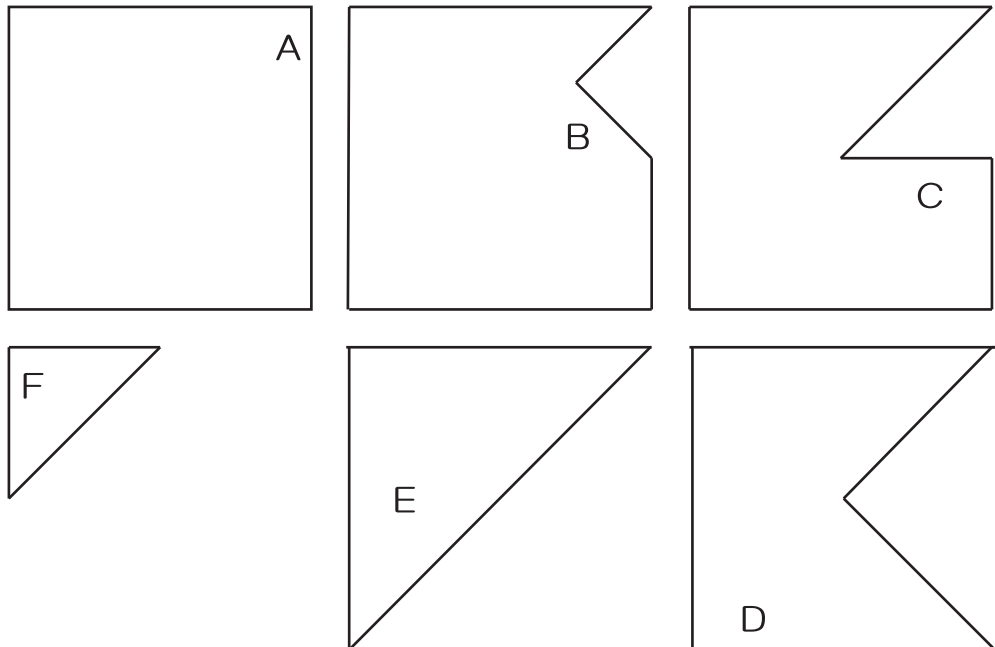
◆モジュールを横から眺めた場合、上下のパーツにすき間が無いこと。

(上のパーツは、下のパーツと同じ大きさか、それ以下になっていること。)

左の図形は実際にはAが一番低くて、Bの側になるに連れて一段高くなるものとします。この場合の、モジュール1個を作るのに必要なパーツは以下ようになります。



左の図形はAからDへ、DからFへと段々高くなるものとします。その場合の必要なパーツの形と数は以下ようになります。



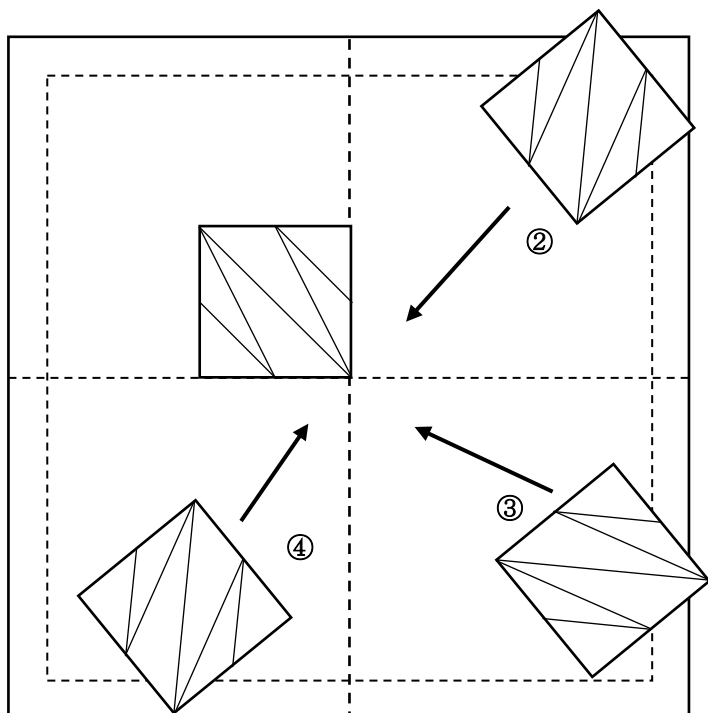
台紙（スチレンボード）への配置と接着

台紙（18×18cm）には鉛筆で薄く線が引いてあります。

まず、色々な向きで並べて見て、一番良いと思う組み合わせを決めましょう。

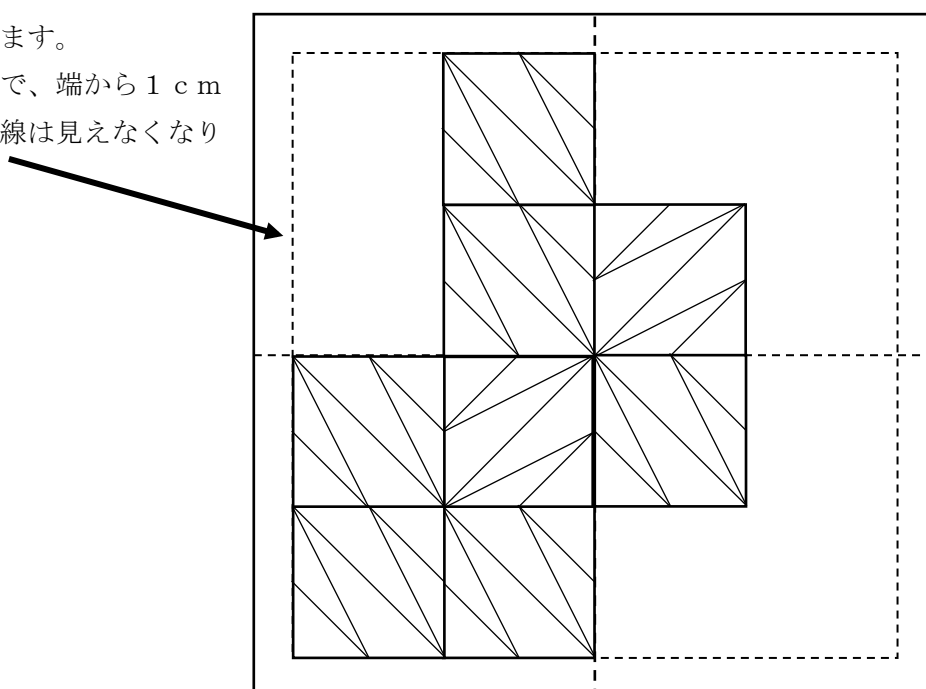
接着（配付した紙用のり：ボンド ペーパーキレイ を使う）

① 必ず中心から貼っていきます。

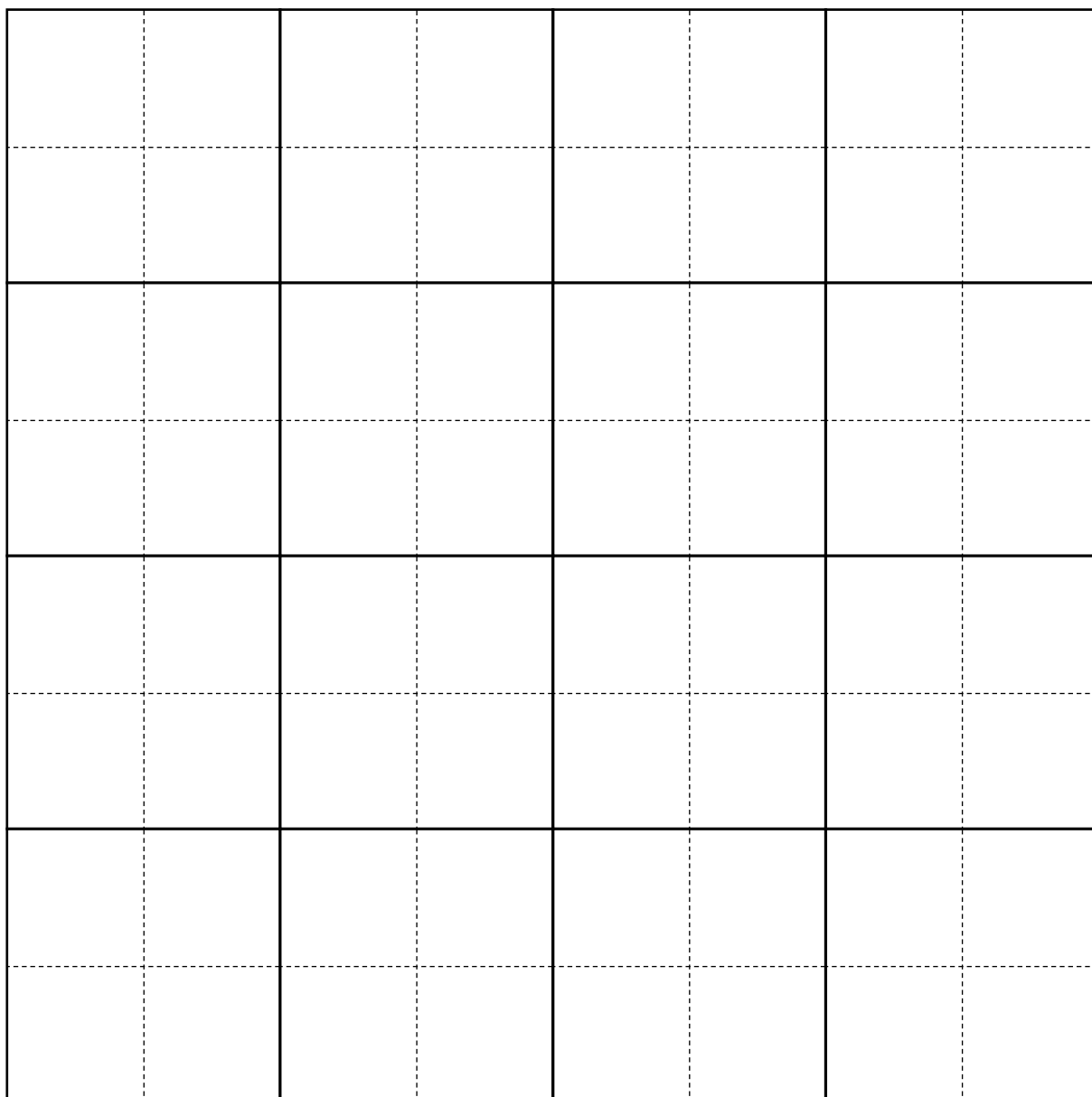


② 右図のようになって行きます。

※中心から貼って行くので、端から1cmのところに描いてある線は見えなくなります。



## ストレッチボードのレリーフ 下描き用紙



### ※使用上の留意事項

- ・経費節約のため、方眼を作成して配付して作業させましたが、こういう簡単な方眼だと、生徒は下図の様に交点同士を結ぶ図形作りがちになります。これでは、空間に形を生み出していることにはなりません。市販の方眼紙を使って描かせた方が、より多彩なアイデアが生まれるようです。自作の方眼を使わせる場合でも、出来るだけ細かい物の方が良いようです。

